

- 1 派遣期日 令和4年10月25日(火)
- 2 派遣先 習志野市立鷺沼小学校
所在地 千葉県習志野市鷺沼3-1-1
<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp>

3 研修内容

(1) 研修テーマについて

習志野市立鷺沼小学校研修テーマ「知的好奇心あふれる授業の創造」

- ・生活科「自分の願いをもって ともに活動する子を育てる手立ての工夫」
- ・理科 「見通しをもって主体的に問題解決に取り組む子を育てる手立ての工夫」
- ・生活単元学習「主体的に活動に取り組み、考え、関わり合うことのできる子を育てる手立ての工夫」

(2) 選定の理由

本校では、確かな学力を育てるために ICT を効果的に活用した授業の改善を研究テーマにしている。鷺沼小学校のホームページの様子から、ICT を効果的に活用した授業を実施している様子がうかがえたため、本校の授業改善に生かせるよう、参観したいと思い選定した。

(3) 公開授業の様子

第2学年生活科「風ってすごいぞ！友だちだ！」の単元4学級を参観した。この単元は身近な自然である「風」を使ったおもちゃ作りを通して、自然のもつエネルギーの不思議さや面白さに気付くとともに、友達と楽しみながら遊びを創り出すことをねらいとしていた。まず、学校内の風探しを行い、そこでの気付きを元におもちゃ作りへとつなげていた。おもちゃ作りでは、自己の思いや願いを実現するために、材料を自ら用意し、試行錯誤しながら工夫してつくっていた。失敗することがあっても、次につながる工夫を見つけたり、解決する方法を進んで探ったりしていた。単元末に1年生と交流して、1年生に喜んでもらうような活動計画だった。単元を通して、伝え合う場、教え合う場といった関わり合いの場を設けることで、友達の良さや自分との違い、遊びを創り出す楽しさに気付くことを重点において授業を展開していた。

① 第1次「風って!？」 1/15時「風でどんなことがおこるかな？」

- ・台風の動画を見て、気付いたことをワークシートに書いて発表した。
- ・知っている風を発表する。…扇風機、ヘリコプター、風鈴など
- ・振り返り…風は音がする。動く物もある。

② 第1次「風って!？」 4/15時「羽根を工夫して風車をパワーアップしよう。」

- ・前時に作った風車をパワーアップさせた。
- ・紙の種類(折り紙、画用紙、厚紙など)を多くし、材料を各自選んで風車を作った。
- ・パワーアップできた児童の風車を取り上げたり、話し合いの場を設けたりすることで、自分もパワーアップさせたいという願いをもつことができていた。



③ 第2次「風とあそぼう」 6/15時「風のおもちゃを作ろう。」

- ・自分で決めた風のおもちゃを作った。
- ・前時に書いた設計図を基におもちゃを作り始めていた。(風の車、パラシュート、船、風鈴、風車など)
- ・いくつかのグループに分かれていたため、アドバイスをし合ったり、試行錯誤したりしながら作っていた。
- ・設計図はタブレットで作成していたため、作り方を確認していた。

④ 第3次「風っ子フェスティバル」13/15時

「風っ子フェスティバルのリハーサルをしよう。」

- ・学級を半分に分け、2年生役と1年生役を交代しながら、リハーサルを行った。
- ・1年生役の児童は良い点と改善すべき点を書きながらグループを回っていた。
- ・アドバイスを基にグループで話し合い、改善して授業の振り返りをしていった。



4 感想

鷺沼小学校は大規模校ということもあり、各学年同じ単元の授業を4つ同時に参観できることが貴重な体験だった。私は2学年担当であるため、2学年を参観したが、この公開授業後に同じような単元を指導するので、参考になることが多く、学びの多い研修となった。

第1時の導入の授業では、風に興味をもたせるために台風の動画をテレビで視聴させていた。児童の反応が良く、教材の選定が研修テーマの「知的好奇心あふれる授業の創造」に合った授業展開だと感じた。また、この学級は児童が発言する度にネームカードを掲示し、誰が何を発言したのかが一目見て分かる板書だったことも参考になった。

第4時の授業では、前時に作った風車をパワーアップさせるために、たくさん材料を用意していたことにより、素材を選択でき、児童の知的好奇心を引き出していた。折り紙や画用紙、厚紙などそれぞれサイズが3種類ずつあり、どの材料を選ぶかわくわくしている児童の様子が見られた。早く作れた児童は、別な素材で試したり、友達にアドバイスしたりすることで、自分の思いや願いをもちながら活動していたのが印象的だった。

第6時の授業では、前時までに Teams を活用しておもちゃづくりの説明書を作成していた。ローマ字入力難しい学年に、どのような方法で作成させたのか疑問に思い、分科会で質問したところ、スマートフォンのようにフリック入力ができる機能を利用して作成したとの回答だった。説明書を訂正しながら作る児童も見られ、タブレットを有効に活用しながらおもちゃを作る様子もうかがえた。

第13時の授業では、フェスティバルのリハーサルの隊形が円になっていて、教室の限られた空間を有効に使っていたのが良かった。ただ遊ぶだけでなく「いいね」と「アドバイス」を付箋に記入し、友達の意見を記録に残して、次の活動に生かすことを参考にしたいと思った。

全体会や分科会では、研修テーマについての講話があり、「知的好奇心」は主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の「主体的な学び」に当てはまる、という話があった。学ぶことに興味や関心をもつ児童の様子がたくさんの場面で見られたので、全体を通して研修テーマに沿った授業が展開されていたと感じた。また、1時間の授業で児童のやる気を引き出す教材や発問の工夫、手立ては改めて大事だと思った。単元名をこだわって決めたという話があり、私は今まで教科書にある単元名をそのまま使っていたが、単元名を変えるということも手立ての一つなのだと知ることができた。

鷺沼小学校の実践は、すぐにでも取り入れられるものばかりで大変参考になった。この研修で得たものを今後の授業改善に生かしたい。